

お聞かせください!ご意見・ご要望

「市長と話し合う会」を開催します

市では、市民の皆さんの声を広く伺うため、「市長と話し合う会」を開催します。参加を希望される方は、直接会場にお越しください。なお、当日の質問や事前要望は、お一人あたり2件までとなります。自由な雰囲気でご意見交換が行われるよう、皆さんのご配慮をお願いします。

◆開催日時

11月13日①
13時30分～16時30分

◆事前要望などの申込方法

件名、内容、氏名、団体名、連絡先を明記し、郵送・FAX・Eメールのいずれかの方法でお申し込みください。

◆開催場所・定員

市役所市民室・150人

お申し込み・お問い合わせは、
〒297-8511 茂原市道表1番地
秘書広報課（3階）

◆事前要望などの申込締切

10月14日①

☎(20)1512、FAX(20)1601へ。
✉kouhou@city.mobara.chiba.jp

市長が行く

産前産後サポートセンター



茂原市長 田中豊彦



先月号では産科のSOSについて書きましたが、今回は茂原市としての独自の取り組みについて皆様にお知らせしたいと思います。

茂原市では、平成27年12月1日より、保健センター内に、産前から育児期まで、妊産婦とその家族を支援する拠点として、「産前産後サポートセンター」を開設しました。ここでは、助産師が常駐し、妊娠出産に関する相談、産後の母乳ケア、心の相談、育児の相談などを行っています。

他市においてはこうしたサポートは、医療機関などに業務委託をしているところが多く、利用者の負担金もあるのですが、茂原市では、市の直営ということで、広く一般住民に門戸を開放し、無料で相談を受け、ケアをしています。特に、妊産婦さんに関しては、市内近隣の医療機関と連携し、一人一人の妊産婦ケアプランを作成し、個別支援を行っています。このような

サポートをしているところは他にもないと聞きます。また、相談事業だけでなく、母親同士の交流会「ままのわ」を定期的に開催し、母親同士の仲間作りも支援しています。

開設前は、よほど困っている人は、保健センターに電話したり、医療機関に相談したりしていたようですが、多くの人は、「これくらいで相談していいのかな」と遠慮してそのままということも多かったようです。

開設後、利用者からは、「母親が育児で一番不安な時期に誰かに気持ちを聞いてもらったり、ほかのお母さんと友達になつたりできるようになりありがたい」とか、「産婦人科では助産師や医師が忙しいので、こんな質問をしたら迷惑かなと遠慮してしまいがちだったが、気軽に相談できる場所があって、また、必要な場合は医師への相談にも向けてもらえるのでありがたい」などのご意見があがっています。

医療機関にかかる負担を、できるだけ小さくすることが行政にとっての最大のミッションです。行政が窓口を設置することで、住民と医療機関の橋渡し役をすることができ、医療機関が本来の業務に専念できることもつなげられます。

9月2日、保健センターに、育生医院と作永産婦人科の医師、助産師が集まっていたとき、妊産婦支援を検討する会を開きました。これは、特定の医療機関に委託せず、行政で、サポートセンターを設置したからこそ実現したことでした。

産科の医師も助産師も、「妊産婦さんが満足のいく妊娠と出産をすることがその後の虐待も予防し、皆で子供を大切にいくしんで育てていく基盤になる」とおっしゃっており、それは私たち皆の思いです。

今改めてこれだけ言うことができません。茂原市ほど医療機関と緊密にケース支援について情報交換をしている市はないと。